「原理理解を重視した PBL による研究力向上」 をテーマに KMUTNB からの招聘学生との交流

東京都市大学

タイ・モンクット王工科大学ノースバンコク校(KMUTNB)の大学院生 10 名が東京都市大学生世田谷キャンパスで「原理理解を重視した PBL による研究力向上」をテーマに課題解決型学習に取り組んだ。

電子情報通信学会では東南アジア諸国への知名度向上と同学会の英文論文誌への投稿促進のために「国外におけるジャーナル論文の書き方セミナー」を開催している。KMUTNBにおいても2回のセミナーを実施していて、本さくらサイエンスプランの実施主担当者(田口亮知識工学部長)がそのセミナーの講師を担当していた。そのセミナーにおいて実施主担当者が今回の引率教員(Dr. Krit Angkeaw)にさくらサイエンスプランについて紹介した。その後、意見交換を行った結果、両校の今後の交流を見据えて、さくらサイエンスプランを実施することを決定、今回の実施となった。

今回のさくらサイエンスプランは「科学技術研修コース」で 2019 年 10 月 14 日~10 月 22 日の 9 日間、本学・世田谷キャンパスで実施する予定であった。しかしながら、2019 年 10 月 12 日に台風 19 号により甚大なる浸水被害を受け、世田谷キャンパスは 2 週間閉鎖を余儀なくされた。KMUTNB とのさくらサイエンスプランは一旦中止とし、再度の開催を JST 个依頼したところ、多大なるご配慮を賜り、2019 年 12 月 2 日~12 月 10 日(9 日間)の期間で実施を実現した。改めて、JST には厚く御礼申し上げる。

さくらサイエンスプランは工学部・機械工学科(内燃機関工学研究室)、機械システム工学科(熱流体システム研究室)、エネルギー化学科(環境化学工学研究室)と知識工学部・情報科学科(視覚メディア研究室、コンピュータシステム研究室)、知能情報工学科(田村研究室、兼子研究室、松崎研究室)の協力を得て実施した。招聘学生の研究分野を考慮して配属先の研究室を決定し、招聘学生はほぼ1週間の期間、配属された研究室で課題解決に取り組んだ。

約1週間、研究室で取り組んだ PBL の成果は 12月9日・14時から行われた成果発表会で披露された。 各招聘学生から 15分程度の持ち時間で本学の各研究室の装置、設備を用いて行われた実験結果とその検 討等が報告された。それら発表は、招聘学生が充実した 1週間を過ごしたことを物語るものであった。 発表会終了後、修了式が執り行われた。修了式では Sakura Science Club の説明が成され、Sakura Science Club のバッジが各招聘学生に渡された。最後に、本学国際センター長の本間教授よりの招聘学生一人一 人に修了証が授与された。

発表会終了後、フェアウェルパーティが行われ、招聘学生をサポートした本学の各研究室の学生も参加した。わずか1週間の付き合いとは思えないほど、両校の学生は親しく会話を交わし、そして、別れを惜しんでいた。このような光景を目の当たりにした時、さくらサイエンスプランを実施して良かったと実感する。

KMUTNB との具体的な交流は、今回のさくらサイエンスプランが初めてである。この実施期間中に、 KMUTNB の引率教員と今後の両校の交流について話し合う機会も得た。来年度以降、交換留学生制度 等を視野にいれて交流を深めること、さくらサイエンスプランを実施することを決定した。実りの多い さくらサイエンスプランであった。この行事を主催する JST に厚く御礼申し上げる。







研究室の風景



日本科学未来館



成果発表会